

利用目的に着目した駅前広場改善項目の比較分析

名城大学大学院 学生員 ○宮地 祐麻

名城大学 正会員 松本 幸正

ジェイアール東海コンサルタンツ 正会員 古井 良典

1. はじめに

超高齢社会の到来やライフスタイルの変化がもたらした自動車依存型社会の影響により、近年、地域公共交通のおかれた状況は厳しさを増している。地方部において公共交通の利用離れがおき、地方鉄道の利用減少が続く地域も存在している。この地方鉄道利用者増の施策として、鉄道運行形態の見直し等のソフト面の整備はもとより、駅施設、駅前広場施設といったハード面の整備も今後重要である。

しかしながら、現状、これらの施設が量的に一定基準以上整備されているからといって、利用者から良い評価を受けているとは限らない。そこで本研究では、今後の鉄道駅計画に反映させるため、駅の利用目的に着目し、利用者意識から見た、鉄道駅施設の改善点を明らかにする。

2. 研究対象

東海三県をまたぐ7本のJR路線に位置する駅を対象に、事前調査を実施した。調査結果を用いて駅の特徴把握¹⁾、ならびにグループ化を行った。各グループにおいて乗車数が多い2駅と乗車数の少ない(ただし2,000人以上)2駅を本研究の対象とし、選定した。選定された12駅および対象路線を図1に示す。

3. 使用データ

これまでに、駅周辺住民を対象に最寄り駅の整備状況に関する意識調査を行った²⁾。主なアンケート項目は、回答者属性、鉄道駅の利用頻度、鉄道駅からの移動目的、駅構内施設の評価、駅前広場の評価、駅施設の評価である。本研究では、駅前広場に対する意識に着目する。駅前広場に対する総合満足度を構成する評価項目の詳細と略記を表1に示す。

4. 利用目的別の駅前広場施設に対する意識

アンケートでは、駅前広場の整備状況に対する評価指標として、総合満足度を”満足”から”不満”の5段階で評価してもらった。松本ら³⁾の手法を適



図1 調査対象駅および対象路線

表1 駅前広場評価項目と略記

	評価項目	略記
1	バス乗り場の利用のしやすさ	バス
2	タクシー乗り場の利用のしやすさ	タクシー
3	自家用車送迎場所の利用のしやすさ	送迎場
4	駐車場の利用のしやすさ	駐車場
5	自転車置き場の利用のしやすさ	自転車
6	駅前広場の歩行空間の利用のしやすさ	歩行
7	待ちあいや休憩場所の整備状況	休憩
8	植栽やモニュメント等の整備状況	植栽
9	トイレの利用のしやすさ	トイレ
10	交通機関の乗り換え情報のわかりやすさ	乗換
11	市街地の情報の得やすさ	情報
12	駅周辺の商業施設の充実度	商業
13	駅前広場の施設(バス停、タクシー乗降場)配置の適切さ	配置

表2 駅前広場のニーズ充足度、改善必要度算出結果

	通勤・通学		買い物	
	ニーズ状態	改善状態	ニーズ状態	改善状態
大垣	1	12	1	12
高蔵寺	4	9	3	10
枇杷島	5	8	10	3
四日市	4	9	2	11
穂積	—	13	2	11
稲沢	5	8	4	9
神領	5	8	7	6
蟹江	—	13	—	13
亀山	1	12	1	12
尾頭橋	1	12	2	11
熱田	—	13	1	12
笠寺	2	11	1	12

キーワード：駅前広場、改善項目、利用目的

連絡先：〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501 名城大学理工学部建設システム工学科 TEL052-832-1151

表 3 駅前広場に対する改善必要項目（通勤・通学）

	大垣	高蔵寺	枇杷島	四日市	穂積	稲沢	神領	蟹江	亀山	尾頭橋	熱田	笠寺
1	送迎場	商業	配置	商業	商業	商業	商業	送迎場	待合	自転車	商業	商業
2	駐車場	情報	商業	情報	待合	情報	情報	駐車場	情報	商業	自転車	情報
3	待合	トイレ	乗換	乗換	送迎場	駐車場	乗換	情報	商業	歩行	情報	待合

表 4 駅前広場に対する改善必要項目（買い物）

	大垣	高蔵寺	枇杷島	四日市	穂積	稲沢	神領	蟹江	亀山	尾頭橋	熱田	笠寺
1	送迎場	商業	商業	商業	商業	商業	商業	配置	商業	自転車	商業	商業
2	駐車場	待合	情報	トイレ	駐車場	自転車	情報	送迎場	駐車場	商業	待合	待合
3	待合	駐車場	駐車場	情報	配置	駐車場	植栽	商業	トイレ	情報	配置	植栽

用し，“どちらでもない”という中間評価を考慮した満足度を用い，伊東ら⁴⁾の手法から各評価項目のニーズ充足度，改善必要度を算出する．ニーズ充足度とは，駅施設に対する利用者のニーズを満たしている度合いであり，一方，改善必要度とは，改善が必要とされる度合いを意味する．駅前広場における算出結果を，表 2 に示す．この表は，鉄道利用目的である“通勤・通学”，“買い物”に着目し，対象駅ごとにニーズ充足状態，改善必要状態の該当項目の個数を表している．

表 2 から，全体的に改善必要状態の項目が多くあることがわかる．特に，蟹江駅においては，鉄道利用目的に関わらず全ての項目で改善が必要とされている．鉄道利用目的での比較をすると，“買い物”は“通勤・通学”に比べニーズ充足状態の項目が比較的多いことがわかる．これは，それぞれの利用目的における，鉄道利用頻度に違いがあるためだと考えられる．“通勤・通学”は利用頻度が高いことから，改善を必要とする意識が強いと思われる．

次に，実際にどのような項目において改善が必要とされているのか，改善必要度の算出結果を，各対象駅において上位 3 項目ずつとりあげる．表 3 は通勤・通学，表 4 は買物を移動目的とした結果である．

表 3，4 から，多くの駅において「商業」の改善が必要とされていることがわかる．「商業」は駅前広場そのものの施設ではなく，駅前広場周辺の地域に関する項目である．このことから，地域の拠点となる鉄道駅の整備は，鉄道駅施設という点での整備ではなく，駅周辺地域という面での整備をすることが重要であるといえる．

鉄道利用目的の違いによって，改善必要項目に違いがみられない駅もある．大高駅に着目すると，利

用目的別であっても改善項目に違いはないことがわかる．しかしながら，改善必要度の数値をみると，「送迎場」において“通勤・通学”では-0.9，“買い物”には-0.7 と改善を求める度合いには違いがあることがわかった．

利用目的の“買い物”に着目すると，多くの駅で「駐車場」の改善が必要であることがわかり，自宅と鉄道駅間の移動が重視されていることがわかる．一方“通勤・通学”では，“買い物”では挙げられていない「乗換」の改善が必要な駅があることがわかる．改善必要度の数値が最も高く，早急に改善が必要とされる項目は，移動目的に関わらず，熱田駅の「商業」であることがわかった．

5. おわりに

本研究では，駅周辺住民を対象に実施した意識調査の結果を用い，駅前広場の改善点の分析を行った．駅前広場におけるニーズ充足度，改善必要度を“通勤・通学”，“買い物”という鉄道利用目的別で算出することにより，利用目的により改善を求める項目の違い，度合いの違いが明らかになった．

利用者がこれからの鉄道駅に求める施設や機能は，地域によって，あるいは，駅特性によって違いがあると考えられる．今後は，駅周辺環境と対象駅の詳細な比較分析を行う必要がある．

【参考文献】

- 1) 古井良典，松本幸正，宮地祐麻：駅前広場および駅勢圏状況による鉄道駅の特性分析，第 65 回年次学術講演会講演概要集，IV-189，pp.377-378，2010
- 2) 宮地祐麻，松本幸正，古井良典：利用者意識と施設整備量を用いた駅構内施設改善項目の分析，平成 22 年度土木学会中部支部研究発表講演概要集，IV-8，pp.227-228，2011
- 3) 松本幸正，古井良典，松井寛：意識評価の非対象構造に基づく生活環境要因の分類と評価改善効果の分析，土木計画学研究・論文集，Vol.25，No.1，pp.267-275，2008
- 4) 伊東裕晃，松本幸正，松井寛：住民意識調査結果を用いた生活環境に対する住民ニーズの経年的変化に関する研究，土木計画学研究・論文集，Vol.25，No.1，pp.23-32，2004